



鷺の宮卓話

SUKIYAKI

太田敬雄

アメリカに留学した1960年、私は日本を知らない学生と出会うとは思ってもいなかった。真珠湾は知っていても日本を知らない学生の存在は驚きだった。初めて会った人からは、「チャイニーズか」と聞かれたりしたものだった。「ジャパニーズだ」と答えると、「その国はどこに有る？中国の中か？」などと聞かれたりもした。

同世代の友人の中では、日本はそれくらい知られていなかったのだ。そのおかげで敵視されることもなく、差別されずに済んだというメリットも有った。新聞でもラジオでも日本のニュースが取り上げられることはまずなかった。その分、私は日本の情報に飢えていた。

母親からたまに小包が届くと、私は包を開いて、中の荷物を包んでいる新聞紙を丁寧に広げて皺を伸ばした。日本の事を知りたくて、その古新聞を貪り読んだものだ。

シカゴまで出かけて、小さな日本の本屋に行き、親鸞や禅関係の本を数冊買った思い出が有る。実は必修の宗教の単位を落とし、再履修時のレポートで日本の宗教の事を書くためだった。再度単位を落とさないための特別の散財。普段はそんな贅沢は出来なかった。

余談だが、大学時代に宗教の他にもう一科目落とした。友達に「一番楽な科目」と教えられて取った経済学。「楽」な理由は「教科書を読んでおけば取れる」からだった。当時の私にはその分厚い英語で書かれた教科書を読むことは何より

も大変だったのに、友達の「楽だ！」の一言に飛びついた自分の浅はかさを悔いたものだ。

さて、話を戻そう。ある時、友人たちが「スキヤキ」という単語を口にしました。日本のことなど何も知らない友達が、なぜ食べ物の名を知ったのか訝ったが、ヒットしている日本人歌手の歌だと彼らが教えてくれた。私もラジオから流されるその歌に聞き入るようになった。

「上を向いて歩こう／涙がこぼれないように・・・」アメリカの大学で一人、皺だらけの古新聞をむさぼり読み、レポートのために片道1時間以上かけて日本の本を買いにシカゴまで出かけていた私に「上を向いて歩こう」と語りかけてくれ、歌ってくれる坂本九がいて、私は元気を与えられたのだった。友人の求めに応じて、歌詞を英語に訳したが、それは私の初めての「翻訳」だった。

その坂本九が「SUKIYAKI」のヒットを受けてアメリカまで行ったことも、彼が私と同学年だったことも、奥さんの柏木由紀子が高校の後輩だったことも知ったのは日本に帰ってからだった。

1983年に群馬の新島学園女子短期大学に移って約1年半後の夏のある日、我が家の上空を見たこともないほど多くのヘリコプターが轟音を立てて南西方向に飛ぶ様子に驚く間もなく、御巢鷹山で坂本九が亡くなったことを知った。

「鷺の宮卓話」に何を書こうかと悩んでいた12月13日夜、NHKの「アナザーストーリー 坂本九の名曲」が再放送された。そこで私はSUKIYAKIに多くの日系人達が心を震わせて耳を傾け、ヒットに歓喜していた事を知った。「悲しみは星のかげに／悲しみは月のかげに」の歌声に私も多くの日系人達、留学生たちと共に笑顔を取り戻し「一人ぼっち」では無いと感ずることが出来たのだ。

# 2年ぶりに帰ってきた！

## 多文化交流inぐんま2022

### 9月23～25日 @学習の森

2年半ぶりに学習の森での実施となりました。

テーマは「ただいま」「おかえり」

参加者・スタッフ・食事ボランティアを始めとする応援してくれる方々…

初めて関わる人も、再び関わる人も、ついポロっと「ただいま」「おかえり」と言ってしまう…

そんな温かい雰囲気になったら。

時は経っても変わらない多文化交流をとの想いで取り組みました。

交流会では、BBQやのり巻きパーティーでおいしいものをたくさん食べたり、チームに別れてバレーボールやドッジボールなどで体を動かしたり、オリジナルなマスクストラップを作ったりしました。

他にも、温泉に行ったり、フリータイムではそれぞれゲームや会話をして夜中まで楽しんでいました。

今回はスタッフがほぼ全員未経験者ということに加え、コロナ禍ということもあり、不安を抱えながらのスタートとなりました。今回の大きな課題は、やはりコロナに関することでした。「絶対に開催したい」でも「本当に開催して良いのか」という葛藤を誰もが抱えていたと思います。それでも、新しい友達に会いたい、そして笑顔が見たいという気持ちを糧に、当日まで準備を進めました。

交流会当日は、「楽しい」しかなく、時間が過ぎるのが本当にあつという間でした。交流会終了後も、しばらく余韻に浸るほど沢山の思い出ができた3日間でした。

ここで皆と永遠にさよならをするわけではありません。私たちが大切にしているのは、交流会が終わった後も、「皆と繋がっている」ということです。コロナ禍で人と出会う事が難しかった中、こうして国籍・年齢・性別を超えてかけがえのない友達を作ることができたこと、本当に嬉しく思います。

今回の交流会の開催にあたり、ご支援・ご協力いただきました皆様のおかげで、無事に「多文化交流inぐんま2022」を終了する事ができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

初めての対面での多文化交流、そして初めてのスタッフということで、不安と楽しみ、両方の気持ちを抱きながら準備をしました。代表として感じるプレッシャーに押しつぶされそうになった事もありましたが、当日、スタッフを含めその場にいた皆が笑顔になっていたのがとても嬉しくて、大変だったけれどここまで続けてきて良かったなと思えました。今回経験できた事は、間違いなく私の人生において大きな財産になったと思います。

こんなにも素敵な多文化交流が未永く続いていくことを願っています。

多文化交流inぐんま 2022 代表  
群馬県立女子大学3年 唐沢実里



今回、初めての対面での交流会を経験し、同じ時間と場所と一緒に共有してこそできる雰囲気や会話、交流を感じることができオンラインの時の交流とはまた違う環境でとても楽しめました。交流会の代表を務めさせていただく中で、準備段階の大変さを超えた様々な知見を得ることができたり、OB/OGの方々ともお話が出来たり、楽しかったといってくださいる参加者の皆さんのおかげでとてもやりがいを感じることができました。

これからもこの素敵な交流会をもっと多くの方に、そして私自身も多文化交流ライフを楽しみたいと思います。

多文化交流inぐんま 2022 代表  
群馬県立女子大学3年 須川奏



OBにきいてみました！

とても楽しかったです。充実した企画やバラエティーな食事などを満喫しました。各スタッフと各ボランティアの熱心なフォローに感謝します。今回の多文化交流会を通じて、様々な国籍の方と話ことができました。国の違い、成長環境や受けた教育の違いによって、価値観も異なります。それを理解しようとする姿勢の大切さを実感しました。このように、違う国の人々と触れ合い、真の情報に触れることで、お互いに対する理解が増し、偏見が低減し、差別のない社会の実現においても、世界平和においても、大変有意義な活動だと思えます。

ロイナン  
盧易南 (中国：高崎経済大学4年)



坂巻英一 (日本：社会人)

コロナ禍以来オンラインでの開催を余儀なくされており、今回の運営スタッフは対面開催を経験していないメンバーがほとんどのこと。その中で、移り変わる情勢や制限等に合わせた内容にイベントを作り上げたスタッフ達には労いの言葉を送りたい。独特な温かい空気感は今回も変わらなかった。自分も学生時代の大半を捧げた多文化交流だが、良い部分を残して続いてくれていると感じた。今後も何らかの形で関わられたら嬉しい。

齋藤恒平  
(高崎経済大学卒・  
多文化交流スタッフOB)



参加者に聞いてみました！

2泊3日という短い時間でしたが国や世代を超えた交流により、とても楽しい時間を過ごすことができました。時間をかけて準備をして下さったスタッフの皆さん、参加者の皆さん、ありがとうございました。

## ～声～ 多文化交流 in ぐんまに寄せられた声の中から

☆二度の三連休に台風2つ到来の中、若者達はめげないですね。先生ご夫妻は、そんな若者達のエネルギーにふれて、ますます若返られるのですね。若者達は、先生のお知恵をいただくという、なんと素晴らしい循環!! その上、多文化交流は、スタッフ交代があっても、常に先輩達が細く長く関わる持続可能なシステムができていて、素晴らしく、尊敬しています。皆様に拍手とエールをおくります。

☆学生さんたちの写真、素敵ですね。（\*多文化ぐんまのスタッフ at 太田家の写真）

昔も、今も、先生が常に垣根を超えて人を繋ぎ、育んでいる姿は変わらず、私もその1人だと思いつつ、出会いに感謝しかありません。

繋がること。そして、その繋がりを続けて紡ぐこと。簡単に見えて、難しいことです。

先生と出会った学生さんたちが作り上げる舞台は、けっして小さくなくて、この舞台が国内のみならず世界にも新しい舞台を作り上げていくことを私は知っています。

## 2023年冬のオムニバス講座

2023年のオムニバス講座は2月から3月にかけて、多彩な講師を迎えて4回開催の予定です。今回もオンラインで夜の8時から9時半（日本時間）にかけて開催します。

講師は2月1日 FMG 会長、花村ひろ子さん。2月15日 傾聴講師、白石安代さん。

3月1日 牧師、斎藤篤さん。3月15日 三味線奏者、上原梅弦さん。魅力的な講師が揃いました。それぞれの講師の語られる「私の住む世界」に触れてみませんか？

### マナパルルーム

マナパルアンドイームズ  
「Manapal&IIMS」は、当研究所が運営する多目的民間教育施設。  
このコーナーでは Manapal&IIMS のスタッフを紹介しています。

#### No.3 荒井和子さん

プロフィール

趣味は海外のトークショーやコメディアンの YouTube 鑑賞。Manapal & IIMS の子どもたちを通してアニメ「鬼滅の刃」を知り、その魅力を教えられることも。推しキャラは煉獄さん。



#### Manapal&IIMS は探し求めていた理想郷

いつも明るく朗らかなよりこ先生は、子どもたちから大人気の先生。安中教室でキッズ英語（未就学から小学生まで）を担当しています。英語との出会いは幼少期に買ってもらった英語の絵本。そこに載っていた ABC の歌を楽しく歌った記憶があり、その頃から英語の先生に憧れていました。大学では



子どもの視点や思考を考え、楽しいレッスンプラン作りを目指しています

中学と高校の英語教員免許を取得。卒業後の就職先では外国人への接客も多く、英語を話す機会がたくさんありました。その後、オーストラリアに語学留学。

初めて会う人と英語で交流できることが嬉しく、ありのままの自分を受け入れてもらうことの喜びと、相手を受け入れることの大切さをあらためて感じる事ができたそうです。この体験がキッズ講師よりこ先生の礎となっています。

帰国後は接客業に就きましたが、子どもたちに英語を教える児童英語への関心は持ち続けていました。そんななか「子どもたちの居場所を作りたい」と書かれた Manapal & IIMS の求人を運命的に発見。「英語を教えるだけではなく居場所を作る。探していたのはこういう場所だ!」と感じ、すぐに連絡を取りました。「子どもたちとのコミュニケーションから学ぶこともたくさんあります。他の子に対する壁がなかったり、喧嘩してもすぐ仲直りできる。勉強も努力して頑張っていて、尊敬できるところばかりです」とよりこ先生。今後はダンスやボイストレーニングにも挑戦してみたい。常に前進するよりこ先生に乞うご期待!



子どもたちとゲームを楽しむよりこ先生

執筆者：狩野真由美

## IIMS の会員になって活動を支えてください

入会ご希望の方は、振込用紙に「入会希望」と記載の上、正会員は 3000 円、賛助会員 2000 円お振込みください。いずれの場合も入会金は戴いておりません。

なお、正会員は総会における議決権を有します。賛助会員・学生会員には議決権は有りませんが、ご希望の場合総会に陪席していただくことはできます。

## ニューズレターのお届け方法について：

現在、ニューズレターは紙媒体でお送りしている方と、メールでお送りしている方が有ります。お届け方法の変更希望がございましたら [iims.since2000@gmail.com](mailto:iims.since2000@gmail.com) にご連絡ください。

## 「違いを認め合い、受け入れ合う中で友となる」

友達の輪が目指す平和な地球社会創りが増々求められる時代となっています。使命感を持って、これからも「多文化交流活動」「オムニバス講座」など力強く推し進めて参ります。お支え下さい！

## 会費及びご寄付のお振込みについて：

### 【クレジットカードによる手続き】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ  
<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

### 【振込用紙による手続き】

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振込用紙を同封させていただきます。これは請求書ではなく、一律に皆様にお送りしているもので、すでに会費をお振込み下さった方にもお送りしています。郵便振替口座ご利用の方はご活用ください。

ご入会および会費・寄付振込：2022.9.16.~12.14. (カード：9.1.~11.30.) (敬称略)

会費やご寄付のお振込み、有難うございます。皆様に支えられて 2023 年に向かいます。

新入会：賛助会員：石川力

正会員費：村田元(23)、小井戸登志子

賛助会費：遠間徹也、森泉寿義雄、鈴木武仁、土屋操、石川力 (22,23)

一般寄付：栗野明子、村井田和夫、石川力、高山有紀、新井瑞穂、山村由美、

多文化交流寄付：菅ヶ谷由美子、匿名、

毎月寄付 (カード振込)：樋本達之、福崎結子、根岸大輔、Rosdiana Febriyanti、藤本恵大、

内野春香、片岡謙、ファン翠、

訂正：9月号のご寄付者に記載ミスが有りました。

岩井均様からのご寄付と記しましたが、岩井智子さまからのご寄付の間違いでした。ご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

編集後記：◎「年寄りの冷や水」と思いつつ、  
乞われて 10 月に福生市にあるホサナ日本語学院の  
校長を引き受けました。学校経験は十分だと思っ  
ていましたが、日本語学校は別世界でした。  
◎今年 は 激動の年でした。来年が 良い年になるよ  
うに出来る努力を続けて行きたいものです。  
◎ニューズレターの準備がすっかり遅くなり、年  
内に届くか不安に思いつつ、「ペンを置く」異にし  
ます。皆様、良いお年をお迎え下さい！ (敬)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所  
事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3  
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393  
研究所：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>  
メールアドレス：[iims.since2000@gmail.com](mailto:iims.since2000@gmail.com)  
まなぱる：<https://www.manapal.jp>  
メールアドレス：[mail@manapal.jp](mailto:mail@manapal.jp)  
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所  
口座番号 00510-1-61974